

学生による学生の合宿型能力開発の検証

今井早苗¹⁾、吉田 博²⁾

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学大学開放実践センター

1. はじめに

現在の我が国における社会状況の特徴として、多様化、グローバル化、少子高齢化、知識基盤社会、成熟社会などの表現が当てはまる。これらの社会において、大学教育が担うべき役割は大きく、専門知識のみならず、生涯学び続ける力や、社会生活においても必要とされる力を育成することが求められている。これらの背景の下、大学教育の現場ではキャリア教育に対する注目が集まっている。徳島大学においても、2011年度よりキャリア教育のプログラム「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」がスタートした。本プログラムは、大学4年間をかけて、様々なプログラムを通して体系的にキャリア形成を行うことが目的である¹⁾。一方、キャリア形成に関わる先行研究として、佐藤は集団での課外活動、あるいは個人での課外活動が重要であり、学生の自発を促すキャリア形成を行うには、正課、正課外、また個人、集団それぞれの活動のバランスが重要であると指摘している²⁾。また、2008年に発表された中央教育審議会答申「学士課程の構築に向けて」においては、教育課程の体系化において課外活動の必要性を示唆している³⁾。以上のことから、第一著者は、集団で行う課外活動の可能性を検証することを目的に、1泊2日で行う学生対象の合宿研修を企画、開催した。本発表は、キャリア形成の視点から学生の能力開発を行うことを目的に実施した、合宿研修の効果を検証し、報告するものである。本発表が教育的意義をもつ課外活動の発展に寄与することを期待したい。

2. 合宿研修「残暑合宿、申し上げます。」

第一著者が企画、開催した合宿研修「残暑合宿、申し上げます。(以下、合宿)」は、2012年8月18・19日に徳島大学碧水寮(徳島県鳴門市)に

おいて実施した。合宿の目的は「大学でのあらゆる活動に対して、大学生が主体的に取り組むことができる積極性を育成するために、自身の様々な能力開発を行う」ことである。この目的をもとに、①企画作り、②しゃべり場、③1分間プレゼンの3つのプログラムを実施した。①企画作りでは、4人1組のグループで学生生活を充実させるための企画を作成し、発表を行うものである。企画を作る際に、自身の関心を整理することができる質問項目を掲載した「ネタ掘りおこシート」を用いた。①での目標は、Ⅰ. 企画制作によって新しいアイデアを生み出すためのクリエイティビティを育成することができる、Ⅱ. チームワークの大切さを知ることができる、Ⅲ. 大学生活を充実させるためのきっかけを作ることができるである。②しゃべり場は、①で作られたグループとは別のグループでグループトークを行う。15分ごとにトークのテーマと進行役を変え、テーマは進行役が提示する。②の目標は、Ⅰ. ファシリテーション力を身につけることができる、Ⅱ. 多様な価値観に触れることができることである。③1分間プレゼンは、くじ引きによって与えられたテーマで1分間のプレゼンテーションを行う。テーマは、「尊敬する人物は誰か」、「好きな授業は何か」などである。③は合宿中に全部で3回実施した。③の目標は、Ⅰ. 自分の意見を相手に伝える力を身につけることができる、Ⅱ. プレゼンテーション力を身につけることである。これらの目標を踏まえた3つのプログラムを中心に、ビーチフラッグ、夕食作りなどのレクリエーションも含め、共同で作業を行うことによる役割分担やチームワークについても体験することができた。

3. 「残暑合宿、申し上げます。」の様子

合宿には8名の大学生が参加した。①企画作り

では、はじめは初対面の参加者同士、意見が出しにくい雰囲気があった。しかし、次第にリーダーシップを発揮する参加者が先導し、メンバー間で意見が活発に交わされるようになり、協力して企画作りが進行した。各チームとも「概要・目的・内容」を備えた企画書を完成させ、相手に伝わるように工夫した発表が行われた（図 1）。発表後には、各チームに対する質疑応答も活発に行われた。②しゃべり場では、進行役の学生が、15 分間という時間を気にしながら初対面の参加者同士が意見を出し、話題が繋がるように工夫を凝らしていた。相手の意見を聞き、他者の考えと繋げ、テンポよく話題を展開させていく能力が求められた。テーマの種類として「自分磨きとは何か」、「就活についての不安」などが提示された。③1 分間プレゼンは前述したとおり合宿中計 3 回実施した。1 回目は、1 分以内に内容をまとめきれなかったり、短く終わってしまう参加者も見られたが、回を重ねるごとにどの参加者も、1 分間の時間配分を考え、相手の顔を見て堂々と身振り手振りを交えながら話すなど、工夫が見られ、上達していることが伺えた。

4. 結果と考察

合宿では参加者アンケートを実施し、全参加者 8 名からの回答を得た。「合宿に参加して、有意義な交流は持てましたか？（5 件法）」という設問では 8 名中 7 名が「5. あてはまる」、1 名が「4. どちらかといえばあてはまる」と回答した。また、「合宿を通して身についたと思うことをお書きください。（記述式）」のすべての回答の中から、合宿で身についた点を記述している部分を抽出し、カテゴリーごとに分類した。抽出した部分は 18 であり、カテゴリー分類の結果は表 1 に表している。コミュニケーション力に関する記述として「相手に伝わるように発信する難しさ」、「相手の考えを知ろうとする姿勢が身についた」などが挙げられた。プレゼンテーション力に関する記述として「プレゼンをして自分のしゃべり方の改善点が見つかった」などが挙げられた。その他にチームワークや企画力などと合わせると、合宿は経

済産業省が提唱している社会人基礎力⁴⁾の 3 つの能力領域にわたる、発信力や傾聴力、計画力、働きかけ力などの幅広い能力を育成することに繋がっていると考えられる。以上のことから、合宿は課外活動の中で参加者にとって有意義感をもたらすことができただけでなく、社会生活で必要とされる能力を育成することについて、寄与できたと考えられる。また、今回使用した碧水寮は、大学の施設ということで無料で使用することができた。このような施設の存在も学生の課外活動支援においては、有益であると考えられる。

表 1 合宿で身についた点

身についた点	件数
コミュニケーション力	7
プレゼンテーション力	4
チームワーク	3
視野の拡大	3
企画力	1



図 1 企画発表の様子

参考文献・資料

- 1) 田中徳一, 成行義文, 平井松午:「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」とそれに基づく初年次キャリア教育の実践, 大学教育研究ジャーナル, 9, 141-151, 2012.
- 2) 佐藤龍子: 学生の自発性を促すキャリア教育と正課外活動, 京都大学高等教育研究, 13, 25-34, 2007.
- 3) 文部科学省: 学士課程の構築に向けて, 中央教育審議会答申, 2008.
- 4) 経済産業省ホームページ
http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_image.pdf (2012. 11. 9) .